

第二回 茅ヶ崎市地域公共交通会議（9/26） 会議録要旨

4 議事

（１）コミュニティバス北部循環市立病院線のルート改善について

- ・北部循環の一番の問題点は利用者が少ないことである。（委員）
- ・茅ヶ崎駅への移動を行う市民がほとんどという現状の中で、北部循環は茅ヶ崎駅に行くためには市立病院で乗り換えが必要であり、かつ香川駅を経由するので、不便であるためである。（委員）
- ・改善案については、予約型乗合バスとなり、文教大学で接続を行うことで、茅ヶ崎駅へ向かう既存路線バスと乗継が可能であるため、評価できる。（委員）
- ・北部循環の改善に際しては、住民のニーズをしっかりと把握することが重要であり、それを行うことで路線バスと合わせたネットワークを作り出す必要がある。（委員）
- ・予約型乗合バスの費用を計上する際に、オペレータの人件費は非常に重要となる。改善計画を作る際には、誰にどのような負担が発生するか、明確にしてほしい。（会長）
- ・今後は、現在のバスの分析と問題点の整理、予約型乗合バスに変えることで発生するプラス面、マイナス面を時間・費用・乗り継ぎなどの面から整理する必要がある。（会長）
- ・最初から本格的な改善を行うのではなく、社会実験を実施し、効果検証を行うことも効果的であるとする。（会長）

（２）コミュニティバス東部循環市立病院線（小和田・松浪コース）のルート改善について

- ・小和田・松浪コースは市内のどの駅にも接続しておらず、目的地となる施設が少ない。市立病院が主な目的地となるが、最近では市立病院へ行く頻度が減少している。（委員）
- ・市立病院への通院減少は、市立病院が初診の受付の際に追加料金が発生する制度になったため、辻堂駅周辺や近くの医療施設を利用するようになったからである。（委員）
- ・既存のバス路線から距離のある市民からは、辻堂駅への接続が求められている。更に、小和田・松浪コースは運行本数が減少しており、地域での知名度も下がっている。そのため、便数の増加の要望も出ている状況である。（委員）
- ・コミュニティバスと既存バス路線の使い分けについては、通勤・通学はほぼ間違いなく既存バス路線を利用している。日中で市立病院に用事がある方のみ、コミュニティバスを利用している。（委員）
- ・休日ダイヤが設定されていないので、検討してはどうか。（委員）
- ・コミュニティバスと既存バスの乗り継ぎが行えると便利なので、国道１号や桜道などでの乗り継ぎを行えるよう工夫し、割引切符などを入れてほしい。（委員）
- ・東部地域はある程度、既存バス路線が充実している。コミュニティバスの改善だけでなく、既存バス路線の問題と一緒に議論していくべきである。（委員）
- ・交通不便地区の課題や東西方向の移動の現状などを踏まえると、小和田・松浪コースの改善

案はいくつか出ると思われる。(会長)

- ・その際に、既存バス路線の課題などを踏まえながら継続して検討していただき、住民が納得する案としてまとめていただきたい。(会長)

6 その他

- ・茅ヶ崎駅や辻堂駅周辺の渋滞対策の方向性、一里塚交差点への既存バス路線の乗り入れなど、コミュニティバス以外の内容についても会議で検討を行ってほしい。(委員)